

ナバリスト 3

杉森 治代 さん | 名張市消防団本団女性部 部長

すぎもり・はるよ ● 名張地域で生まれ育つ。父親が消防団に所属していたこともあり、2005年に消防団本団女性部の発足と同時に入団する。2015年、女性部 部長に就任。仕事と消防団の活動のかたわら、趣味のなぎなたでリフレッシュすることも。



女性消防団員が集う全国大会。全国各地の仲間と10年以上親交が続いている



子どもたちに人気のアンシンダーLも活動の一環だ



20代から60代までの20人が女性部に所属。「いい雰囲気の中、活動できている」と杉森さん

名張にいたるのが嫌だったのに、いまでは居心地がいいんです

父親が消防団で活動していましたし、学生時代の阪神淡路大震災の被災経験から「防災」はいつも身近にありました。消防団には、さまざまな地域の人・年代が集まっているので、普段の生活の中では出会えない人とながれることが魅力。女性部では、防災訓練や救命講習、「アンシンダーL」による啓発活動などをみんなで分担しながら、仕事や育児と両立できるように取り組んでいます。

今の仕事を始めて忙しくなる前は、地域で生活支援を行う「隠おたがいさん」の活動にも加わっていました。近所の人からは、よくパソコンの使い方を聞かれたり、資料作りを頼まれたりすることもあります。「引き受けすぎかな」と思うこともありましたが、喜ばれるとうれしくて。親世代は助け合いながらうまくやってるなと感じますが、「持ちつ持たれつ」なんですよね。私たちの世代になれば、支える人が少なくなってくるかもしれない。誰かがいないといけないんだろ。うなと。それに、そんなに構えなくても自然体で助け合えるといいですね。

若いころは、名張が閉塞的に感じて、地元にいるのが嫌でした。だけど、消防団や「隠おたがいさん」の活動を通してまちに関わり出してから、地元の世界が広がって知り合いも増えて、だんだん居心地がよくなってきたように思えます。この先も愛着のある地元で元気に過ごすが、ささやかな夢です。

編集後記



名張のひと・活動

東日本大震災の際、私も被害認定支援に。悲惨な光景とともに「命からがら逃げた」「近所のみんなが助けてくれた」とお話を聞いた被災者を思い返し、紙面を編集。ストップ！「忘災」(たか)

移住者や、若い人などの入団も増えている女性消防団員。地域の役に立つ上に、自分や家族のためにもなる防災や応急処置の知識も身につきます。あなたも一緒に活動しませんか(くま)

災害が起こったら、愛するペットをどうするか。実際、ペットのために避難しない人も多いと聞きます。他の人に配慮しながら、大切なペットと避難できるようにしていきたいですね(はる)

4月に入職した新入りですが、今月号から広報作りに携わせていただきました。次号からも試行錯誤をしつつ、少しでも皆さんに「伝わる」広報を作っていきます！(こづ)

